

特別支援学校教員 スタート・プログラム (試案)

本プログラムを活用する際には、
「プログラムの特徴と活用の仕方」を
御覧ください。



北海道立特別支援教育センター

目次

1	プログラムの内容	・・・ 1
2	プログラムの特徴と活用の仕方	・・・ 2
	(1) 各特別支援学校で行う初任段階教員を対象とした研修に活用！	
	(2) 研修資料とその解説を活用して研修を実施可能！	
	(3) 研修の効果を高めるための工夫！	
	(4) プログラムを活用した学校計画研修の例	
3	研修資料の解説	
	〔セクションⅠ〕基礎基本の理解度アップ	
	I-1 障がいの理解～「障がい」を環境から捉える～	・・・ 6
	I-2 知的障がいの特性と基本的な対応	・・・ 8
	I-3 実態把握～知的障がい～	・・・ 10
	I-4 自立活動の指導の基本～知的障がい～	・・・ 12
	I-5 個別の指導計画	・・・ 14
	I-6 個別の教育支援計画	・・・ 16
	I-7 教員間の連携	・・・ 18
	I-8 保護者への対応	・・・ 20
	〔セクションⅡ〕授業カレベルアップ	
	Ⅱ-1 授業づくりの基本～1単位時間の授業の目標の明確化～	・・・ 22
	Ⅱ-2 単元の指導計画	・・・ 24
	Ⅱ-3 学習評価～評価規準の設定～	・・・ 26
	Ⅱ-4 学習指導案の作成	・・・ 28
	Ⅱ-5 主体的・対話的で深い学び	・・・ 30
	Ⅱ-6 個別最適な学びと協働的な学び	・・・ 32

☆ 「研修資料（スライド）」

(http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=1150)



本プログラムは、特センが行った令和5年度の「特別支援学校における経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた研究」において、学校における人材育成の取組を支援することを目的に作成したものです。

1 プログラムの内容

プログラムの内容

【セクションⅠ】

基礎基本の理解度アップ

I-1	障がいの理解 ～「障がい」を環境から捉える～	30分	(説明10分 演習20分)	P 6
I-2	知的障がいの特性と基本的な対応	35分	(説明15分 演習20分)	P 8
I-3	実態把握～知的障がい～	30分	(説明10分 演習20分)	P 10
I-4	自立活動の指導の基本～知的障がい～	40分	(説明20分 演習20分)	P 12
I-5	個別の指導計画	30分	(説明10分 演習20分)	P 14
I-6	個別の教育支援計画	30分	(説明10分 演習20分)	P 16
I-7	教員間の連携	35分	(説明15分 演習20分)	P 18
I-8	保護者への対応	35分	(説明15分 演習20分)	P 20

【セクションⅡ】

授業力レベルアップ

Ⅱ-1	授業づくりの基本 ～1単位時間の授業の目標の明確化～	30分	(説明10分 演習20分)	P 22
Ⅱ-2	単元の指導計画	35分	(説明15分 演習20分)	P 24
Ⅱ-3	学習評価～評価規準の設定～	40分	(説明20分 演習20分)	P 26
Ⅱ-4	学習指導案の作成	35分	(説明15分 演習20分)	P 28
Ⅱ-5	主体的・対話的で深い学び	30分	(説明10分 演習20分)	P 30
Ⅱ-6	個別最適な学びと協働的な学び	35分	(説明15分 演習20分)	P 32

2 プログラムの特徴と活用の仕方

プログラムの特徴と活用の仕方

(1) 各特別支援学校で行う初任段階教員を対象とした研修に活用！

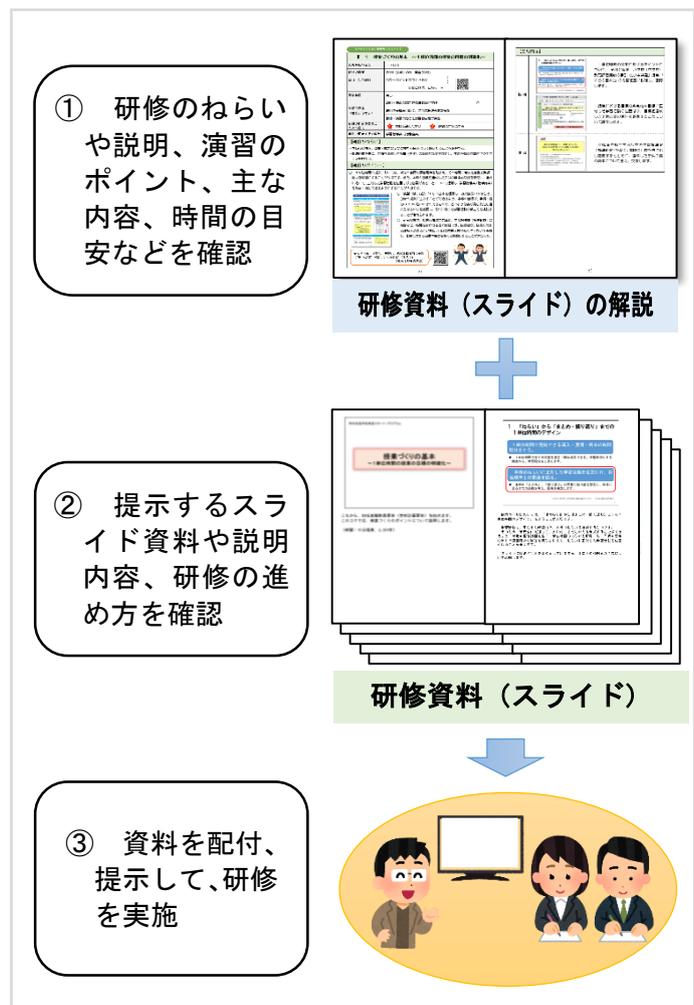
- ・本プログラムは、特別支援教育を担う教員の資質能力の向上を図る取組を充実するため、特別支援学校において初任段階教員（1年次）を対象に行う学校計画研修で活用することを目的に作成したものです。
- ・本プログラムは、初任段階教員に身に付けてほしい基本的な内容や研究授業に向けた内容で構成しており、学校計画研修の年間計画に位置付けて活用することができます。詳しくは、5ページの「(4) プログラムを活用した学校計画研修の例」を御覧ください。



(2) 研修資料（スライド）とその解説を活用して研修を実施可能！

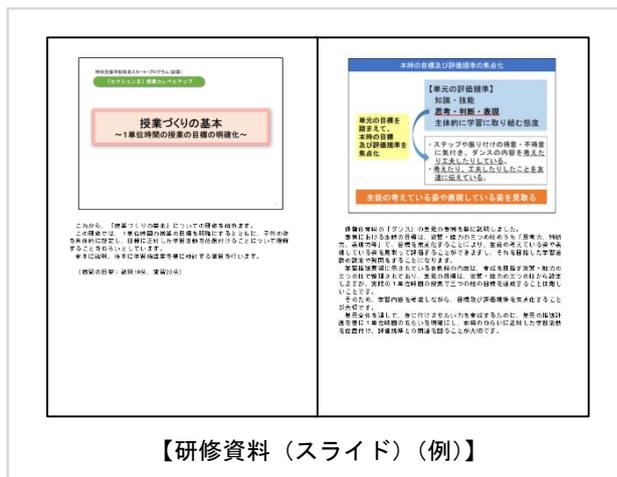
ア 基本的な活用の仕方

- ① 指導教諭や初任段階教員研修の担当部署から依頼を受け研修を行う教員（以下「指導教諭」という。）は、担当する内容の研修資料（スライド）の解説を基に、研修のねらいや説明するポイント、主な内容などを確認します。
- ② 研修資料（スライド）を基に、提示するスライド資料や説明内容、研修の進め方を確認します。
- ③ 研修資料（スライド）を使って、初任段階教員（1年次）等を対象に研修を行います。



イ 研修資料（スライド）

- ・パワーポイント形式の説明原稿付きのスライド資料です。
- ・各学校における取組など、関連する内容を説明するために、スライドや説明内容を追加することができます。
- ・研修を効率的に行うため、研修資料（スライド）を初任段階教員に配付し、各自であらかじめ目を通した上で、対面で行う時には演習を中心とするなど、取り扱いを工夫することができます。



【研修資料（スライド）（例）】

ウ 研修資料（スライド）の解説

- ・研修資料（スライド）の解説は、指導教諭が活用するものです。
- ・短時間で実施し、内容の理解や習得を図ることができるよう、研修のねらいや説明、演習のポイントに記載しています。

実施時期や時間の目安、説明資料の枚数などを記載しています。

研修の効果を高めるための工夫は、特に行ってほしいことを示しています。詳しくはP4を御覧ください。

研修の方法は、推奨する方法に「○」を付けています。学校の状況に応じた方法で行ってください。

指導教諭が、内容を焦点化して研修を実施できるよう、研修のねらいを記載しています。

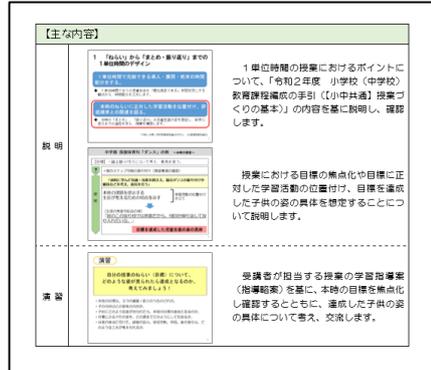
研修のねらいを踏まえて、重点的に説明してほしい内容や、演習において、どのような視点で考え対話してほしいかを記載しています。

【研修資料（スライド）の解説（左ページ）】

指導教諭が、研修資料のパワーポイントのスライドや説明原稿を全て見なくても、研修の概要を把握できるよう、主な内容や進め方を記載しています。

初任段階教員が研修内容の理解を深め、実務に生かし、研修の手応えを実感できるようにするため、各研修資料に演習を設定しています。

演習の進め方は、パワーポイントの説明原稿を御覧ください。



【研修資料（スライド）の解説（右ページ）】

(3) 研修の効果を高めるための工夫！ **重要！**

授業をはじめ、様々な業務がある中で、時間を確保して研修を行うからには、その効果を高めたいものです。研修を行うに当たって、初任段階教員が必要な知識を着実に理解し、技能を身に付け、教員として求められる資質能力を高められるよう、次の3つの工夫を参考にしてください。

1 対話を通じた学び

- ・初任段階教員同士や先輩教員、他校の教員等との対話を取り入れることにより、学んだ実感を得られるようにするとともに、理解の深まりや技能の習得につなげることが大切です。
- ・研修における対話を通して、初任段階教員同士や指導教諭との関係を築くとともに、日常のコミュニケーションや授業における連携に生かせるようにします。
- ・研修のねらいを踏まえた対話となるよう、研修資料（スライド）の説明原稿に示した〔受講者への問いの例〕や〔個人思考及び協議の観点の例〕を参考にしてください。



2 研修の方法の工夫

- ・自校の初任段階教員（1年次）が少なく、初任段階教員同士の対話ができない場合や相手が決まった人になってしまう場合は、計画段階から次の方法を検討し、日程等を調整して研修を行うことが考えられます。
 - ☆ 初任段階教員（2年次）や（3年次）等の教員も対象に研修を行う。
 - ☆ Web会議サービス（Google Meet等）を活用して、他校の初任段階教員と合同で研修を行う。



3 先輩教員の経験談や実践

- ・初任段階教員（1年次）の研修を受けた先生方から、先輩教員に授業や校務分掌業務での工夫を教えてもらったことで、真似をしたり自分で工夫したりできてよかったとの振り返りがありました。
- ・初任段階教員は、成功事例だけでなく、失敗談や悩んだことなどからも学びたいと感じていますので、研修の中で、ぜひ経験談や実践に触れて説明してください。



自身の成長を
実感！

スキルアップ！

モチベーション
アップ！

プログラムを活用した研修を
指導教諭に依頼する際に、
このページを必ず渡してください！



(4) プログラムを活用した学校計画研修の例

学校計画研修の研修内容の計画の一部を、月ごとに例示しています。

研修資料（スライド）は、年間の業務や研修の流れを踏まえて学ぶタイミングを検討するとともに、次年度などの先を見通して目的意識を持って学べるようにするなど、意図的に活用することが大切です。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
I-1 障がいの理解	I-4 自立活動の指導の基本	学級経営	道徳教育	個別の指導計画の評価	現場実習	センター的機能	交流及び共同学習	不登校の対応	I-6 個別の教育支援計画	II-1、II-2等 学習指導の振り返り	I-8 保護者への対応
I-2 知的障がいの特性と基本的な対応	年間指導計画	体罰防止	教材研究	II-1 授業づくりの基本	TTによる指導	学校行事	教室環境の整備	いじめの対応	I-5 個別の指導計画	生徒指導の振り返り	
教育課程	生徒指導	教育相談	ICTの活用	II-2 単元の指導計画	II-4 学習指導案の作成	II-6 個別最適な学びと協働的な学び	研究授業	入学者選考検査		学級経営	
I-3 実態把握	進路指導	I-8 保護者への対応		II-3 学習評価	II-5 主体的・対話的で深い学び	II-1、II-2等 学習指導案の検討	II-3等 研究授業の振り返り				
I-5 個別の指導計画	I-7 教員間の連携	年度始めに 基本的な内容について研修を行い、 児童生徒との関わりなどの実務を通して 理解を深められるようにしよう！		研究授業に向けて、 授業において育成を目指す資質・能力や 本時のねらい、展開について十分検討できるよう、 授業力レベルアップの研修資料を使って 研修を進めよう！				次年度に向けて、 学級担任等の業務への準備ができるよう、 個別の指導計画や保護者への対応について この時期に、もう一度研修を設定しよう！			
I-6 個別の教育支援計画	学校安全										
教職員の服務	寄宿舎の生活										
～基本的な内容を学ぶために～				～研究授業に向けて～				～1年の振り返りと次年度に向けた準備のために～			
〔セクションⅠ〕基礎基本の理解度アップの 研修資料を活用！				〔セクションⅡ〕授業力レベルアップの 研修資料を活用！				〔セクションⅠ・Ⅱ〕から 研修資料を選択して活用！			

プログラムの内容

〔セクションⅠ〕基礎基本の理解度アップ

I-1	障がいの理解	P 6
I-2	知的障がいの特性と基本的な対応	P 8
I-3	実態把握	P 10
I-4	自立活動の指導の基本	P 12
I-5	個別の指導計画	P 14
I-6	個別の教育支援計画	P 16
I-7	教員間の連携	P 18
I-8	保護者への対応	P 20

〔セクションⅡ〕授業力レベルアップ

II-1	授業づくりの基本	P 22
II-2	単元の指導計画	P 24
II-3	学習評価	P 26
II-4	学習指導案の作成	P 28
II-5	主体的・対話的で深い学び	P 30
II-6	個別最適な学びと協働的な学び	P 32

研修の効果を高めるための工夫

1

対話を通じた学び

- ・学びを実感できるよう、教員同士の対話を設定する。
- ・研修での対話を、日常の教員間の連携に生かせるようにする。
- ・研修資料の〔受講者への問いの例〕などを参考に対話する。

2

研修の方法の工夫

- ・初任段階教員（1年次）が少ない場合は、2年次等の教員も含めた研修や、遠隔での他校と合同の研修を実施する。

3

経験談や実践

- ・授業や校務分掌業務での工夫など、実際の取組を通して学べるようにする。
- ・成功事例だけでなく、先輩教員の失敗や悩んだことなども含めた、経験談や実践を通して学べるようにする。

3 研修資料の解説

Ⅰ－１ 障がいの理解 ～「障がい」を環境から捉える～

実施時期の目安	4～5月	
時間の目安	30分（説明10分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド11枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	有り（研修資料の1枚目に二次元コードがあります。）	
研修の方法 （推奨する方法）	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★3 先輩教員の経験談や実践	
学校で用意する資料等	個別の指導計画	

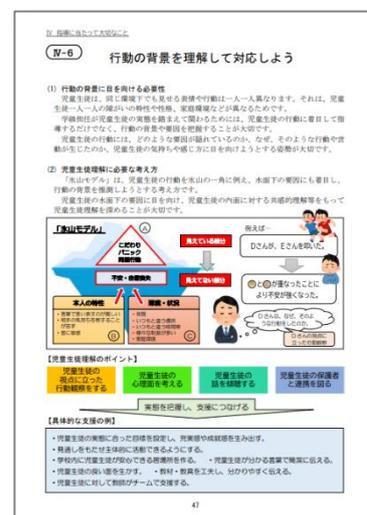
【研修のねらい】

- ・障がいによる学習上又は生活上の困難を捉えるためのICFや障がいの社会モデルの考え方を理解する。
- ・担当する子供の行動について、その背景にある個人の特徴や環境の要因に目を向け分析する技能を身に付ける。

【研修のポイント】

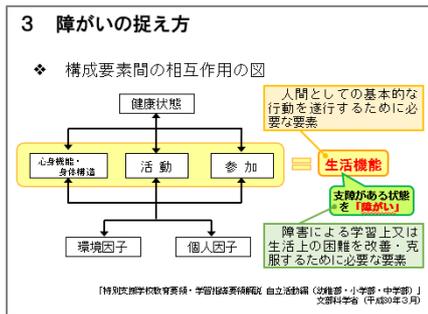
- ICFによる障がいの捉え方や障がいの社会モデルは、障がい理解において重要な考え方です。子供の実態を的確に把握し、適切な指導や必要な支援を検討するためには、これらの考え方を理解するとともに、子供の行動等の背景要因を分析できる技能を身に付けられるようにすることが大切です。
- この研修では、氷山モデルを使い、行動の背景要因を分析する演習を設定しています。演習に当たっては、受講者が、既に把握している実態を基に考えを深め、実際の指導や支援に生かすことができるよう、個別の指導計画等を活用することが考えられます。
- 演習は、ICFや障がいの社会モデルの考え方を理解し、子供の実態を分析的に把握するための技能を身に付けることを目的としています。受講者の考えを引き出したり、演習シート上で一緒に整理したりするなど、受講者が思考を深められるようにすることが大切です。

特別支援学級担任のハンドブック（新訂版）
 IVの6 行動の背景を理解して対応しよう
 [北海道立特別支援教育センター]

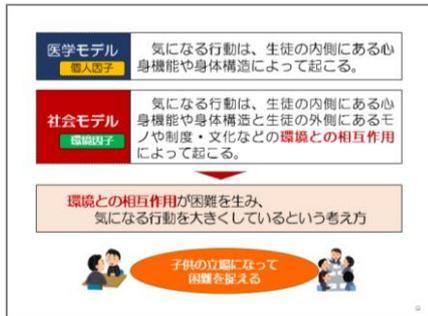


【主な内容】

説明

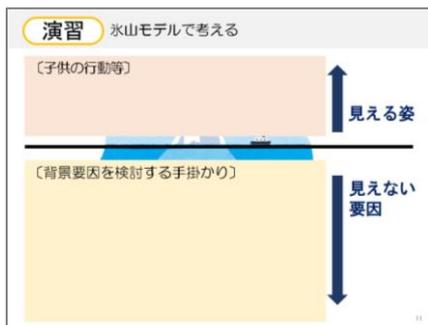


「障がいによる学習上又は生活上の困難」について、ICFの障がいの捉え方を基に、個人因子や環境因子との関連を踏まえて把握し、指導を検討する必要があることを説明します。



障がいの「社会モデル」の考え方や、障がいによる学習上又は生活上の困難について本人の立場に立って捉え、必要な支援の内容を一緒に考える経験や態度を身に付ける必要があることについて説明します。

演習



受講者が担当する子供の行動について、氷山モデルを使って、その行動を引き起こす背景を個人の特徴や環境の要因から考え、整理・分析します。

I-2 知的障がいの特性と基本的な対応

実施時期の目安	4～5月	
時間の目安	35分（説明15分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド12枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	有り（研修資料の1枚目に二次元コードがあります。）	
研修の方法 （推奨する方法）	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★3 先輩教員の経験談や実践	
学校で用意する資料等	無し	

【研修のねらい】

- ・ 知的障がいの特性や、それによって生じる困難さについて理解する。
- ・ 知的障がいのある子供への分かりやすい伝え方の例示を踏まえ、困難さに応じた関わり方の工夫を考える。

【研修のポイント】

- 知的障がい者である子供に対する教育に当たっては、知的障がいの定義や特徴、生じる困難さを理解しておく必要があります。その上で、指導や支援の方法、関わり方を工夫することが大切です。
- この研修では、抽象的な言葉や概念を理解することが難しいなどの困難さがある子供への分かりやすい伝え方について説明し、子供の困難さの状況に応じた関わり方の工夫について考える演習を設定しています。
- 演習では、研修資料の例示だけでなく、受講者が担当している子供の実態を踏まえ、困難さが生じている状況を指導教諭が例示し、どのような関わり方の工夫を行うかを考えたり、指導教諭の経験を基に事例を説明したりするなど、実際の子供への関わりに生かすことができるようにすることも考えられます。



障害のある子供の教育支援の手引
第3編「Ⅲ 知的障害」P120～
[文部科学省]



特別支援学校学習指導要領解説
【左】各教科等編（小学部・中学部）P26～
【右】知的障害者教科等編（上）（高等部）P29～
[文部科学省]

【主な内容】

説明

1 知的障がいとは

ア 知的障がいの定義

知的障害とは、一般に、同年齢の子供と比べて、「**認知や言語などにかかわる知的機能**」の発達に遅れが認められ、「**他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力**」も不十分であり、特別な支援や配慮が必要な状態とされている。また、その状態は、環境的・社会的条件で変わり得る可能性があると言われている。

知的機能 + **適応行動**

『障害のある子供の教育支援の科』 文部科学省（令和3年6月）

知的障がいは、「知的機能」の発達の遅れと「適応行動」の困難さがある状態であることを説明します。

4 分かりやすく伝える工夫

ア 「視覚的な情報」で伝える

【困難さ】

○ 目に見えないものや抽象的な概念を理解することが難しい。



【関わり方のポイント】

- イラストやカード、写真など、視覚的な情報を活用しながら、分かりやすく伝える。
- タブレットにイラストやカードを取り込み、説明と合わせて提示する。

知的障がいによって生じる困難さを踏まえた、分かりやすく伝える工夫について説明します。

演習

演習

❖ 例えば、こんな時、どのような関わり方の工夫が考えられるでしょうか…

① 大丈夫ですか？
はい
大丈夫です。心配ありません。

② 頼まれたことを忘れてしまう

③ 案内板などの意味を理解することが難しい

『6のバリアフリー つながるやさしさ ハートシティ東京』 東京都市出版社

例示を基に、知的障がいのある子供への関わり方の工夫について考え、交流します。

I-3 実態把握～知的障がい～

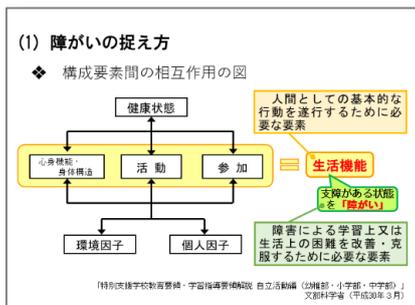
実施時期の目安	4～5月	
時間の目安	30分（説明10分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド8枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	有り（研修資料の1枚目に二次元コードがあります。）	
研修の方法 （推奨する方法）	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★ 対話を通じた学び	
学校で用意する資料等	個別の指導計画、子供の実態に関する情報が記載されている資料	

【研修のねらい】

- ・ 知的障がいのある子供の実態把握における視点や把握する内容について理解する。
- ・ 知的障がいのある子供の発達の状態や障がいの状態等について、「障害のある子供の教育支援の手引」の項目を基に整理し、子供の実態を把握する技能を身に付ける。

【研修のポイント】

- 障がいの特性を踏まえ、子供に適切な指導や必要な支援を行うためには、実態把握が必要です。実態把握に当たっては、知的障がいの状態等を的確に把握するために必要な情報や項目を知り、それらの情報を困難さなどの課題だけでなく、よさを捉える視点を持って収集し、整理できるようにすることが大切です。
- この研修では、「障害のある子供の教育支援の手引」に示されている実態把握の項目を基に、子供の課題やよさを整理する演習を設定しています。子供のつまずきや課題となる行動を把握し整理する際は、本人だけでなく環境にも目を向けることが大切です。必要に応じて、「I-1 障がいの理解」の研修を行い、ICFによる障がいの捉え方や障がいの「社会モデル」について理解した上で、演習を進めてください。



「I-1 障がいの理解」
[本プログラム P6]

障害のある子供の教育支援の手引
第3編「Ⅲ 知的障害」P125～
[文部科学省]

【主な内容】

説明

3 実態把握をする際のポイント

児童生徒のよさを捉える

- 得意なこと、興味・関心のあること
- は何か
- その子らしさ、持ち味は何か

生かす
伸ばす

児童生徒の課題を捉える

- できそうなことは何か
- どのようにしたらできそうか
- 困難なことなどは何か
- その原因は何か

課題の背景・原因に
目を向けましょう

応じる
改善する

4 教育的側面からの知的障がいの状態の把握②

本人の障がいの状態等に関すること

- 学習意欲、学習に対する取組の姿勢や学習内容の習得
 - 学習の態度（着席行動、姿勢保持）が身に付いているか。
 - 学習や課題に対して主体的に取り組む態度が見られるか。
 - 学習や課題に対する理解力や集中力があるか。
 - 読み・書き・計算などの学習の習得の状況はどうか。
- 自立への意欲
 - 自分で周囲の状況を把握して、行動しようとするか。
 - 周囲の状況を判断して、自分自身で安全管理や危機回避ができるか。
 - 自分でできることを、他者に依存していないか。
 - 周囲の支援を活用して、自分のやりたいことを実現しようとするか。

「障害のある子供の教育支援の手引」文部科学省（令和3年6月）

実態把握において、子供のよさと課題の両面を把握することが大切であることを説明します。

実態把握の内容の例として、「障害のある子供の教育支援の手引」に示されている「発達の状態等に関すること」や「本人の障がいの状態等に関すること」を説明します。

演習

演習

項目	児童生徒の実態	支援の方向性
1. 学習意欲・学習に対する取組の姿勢や学習内容の習得		
2. 自立への意欲		

担当している
子供の実態について、
障害のある子供の教育支援の手引の
項目に照らして整理してみましょう！

説明を踏まえ、演習シートを使って、担当する子供の実態を整理します。

I-4 自立活動の指導の基本～知的障がい～

実施時期の目安	4～5月	
時間の目安	40分（説明20分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド13枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	有り（研修資料の1枚目に二次元コードがあります。）	
研修の方法 （推奨する方法）	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★ 対話を通じた学び	
学校で用意する資料等	個別の指導計画	

【研修のねらい】

- ・ 自立活動の指導の意義や知的障がいの状態に応じた自立活動について理解する。
- ・ 個別の指導計画を基に、自立活動の指導目標や指導内容、指導場面を整理し、担当する子供の自立活動の指導を理解する。

【研修のポイント】

- 知的障がいの子供への自立活動は、知的障がいに伴って見られる、言語や運動といった発達の遅れに対して行われるものであることを理解できるようにすることが大切です。
- 演習においては、指導内容や指導場面等を整理し、自立活動の指導で何が身に付くのか、身に付いたことが各教科等の学習や日常生活の中でどのように役立つかなどの問いを立てて考え、受講者同士で交流するなど、実際の指導を通して理解を深められるようにすることが大切です。また、学校の子供の実態を踏まえ、指導教諭が担当した子供の自立活動の指導について個別の指導計画や演習シートで例示して説明するなど、受講者が理解しやすくなるよう工夫することも考えられます。



令和5年度特別支援教育教育課程改善の手引
[北海道教育委員会]



特別支援学校教育要領・学習指導要領解説
自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
[文部科学省]

【主な内容】

説明

6 知的障がいのある児童生徒の自立活動の必要性

○ 知的障がいに伴うもの

全般的な知的発達や適応行動の状態に比較して、言語、運動、動作、情緒、行動等の特定の分野に、顕著な発達の遅れや特に配慮を必要とする様々な状態が知的障がいに伴って見られる。

<知的障がいに伴うものの例>

- ・言語理解の程度に比較して、表出言語が極めて少ない。
- ・全体的な身体機能の発達の程度に比較して、特に平衡感覚が未熟である。
- ・心理状態が不安定になり、パニックになりやすい。
- ・極めて動きが多く、注意集中が困難である。など

NISE学びラボ「知的障害教育における自立活動の指導」国立特別支援教育総合研究所

目標	困ったときに周囲の人に援助を依頼することができる。			
自立活動の内容	心理的な不安定 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること	環境の把握 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	コミュニケーション (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること
指導の場面	① 困った時に、援助を依頼し、課題を解決できたという経験を積み周囲の人との関わりに自信をもつ。	② 状況に応じて、伝える相手を判断する。	③ 文例を参考に、困ったことを他者に分かりやすく伝える。	

令和5年度特別支援教育指導改善の手引（北海道教育委員会）令和5年12月

知的障がいのある子供の自立活動の指導は、知的障がいに伴って見られる困難さに対して行うものであることについて説明します。

自立活動の指導事例を基に、障がいの状態等や指導の方向性、選定し関連付けた自立活動の内容等について説明します。

演習

演習

指導内容	
指導場面	
指導内容	
指導場面	

担当している子供の個別の指導計画を基に、自立活動の指導内容や指導場面などを整理してみましょう！

演習シートと個別の指導計画を使って、担当する子供の自立活動の内容や指導内容、指導場面を整理します。

また、自立活動の指導により身に付いたことがどのように役立つかなどを考え、交流します。

I-5 個別の指導計画

実施時期の目安	4～5月、2～3月	
時間の目安	30分（説明10分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド9枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	有り（研修資料の1枚目に二次元コードがあります。）	
研修の方法 （推奨する方法）	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★ 対話を通じた学び	
学校で用意する資料等	個別の指導計画	

【研修のねらい】

- ・ 個別の指導計画を作成する目的や活用の留意点について理解する。
- ・ 自校の個別の指導計画を基に、様式、作成・評価等の年間の流れ、実態把握から指導目標や指導内容を設定する進め方などについて理解する。

【研修のポイント】

○ 個別の指導計画は、障がいのある子供一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものです。この計画を基に、卒業するまでに、子供に各教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのか、指導目標を明確にして指導することや、効果的な指導を行うために評価・改善することについて理解できるようにすることが大切です。

○ この研修では、自校の個別の指導計画や関連する資料等を見ながら、様式や作成から評価・改善の年間の流れを確認する演習を設定しています。個別の指導計画について、学校で定めていることや指導教諭が工夫していることを説明し理解を深めるなど、受講者が、個別の指導計画の作成・評価や、計画に基づいた指導・支援を行うことができるようにすることが大切です。



- 【左】 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）P240～
- 【右】 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上）（高等部）P140～

【文部科学省】



【主な内容】

説明

障がいの状態の重度・重複化、多様化



個別の指導計画は、第1章総則第3節の3の(3)のAを具体化し、**障害のある児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものである。**

特別支援学校教育要綱・学習指導要領解説総論編（幼稚園・小・中・高）
文部科学省（平成30年3月）

6 個別の指導計画の作成③

- 卒業するまでに、各教科等の指導を通してどのような資質・能力を目指すのか、各教科の指導内容の発展性を踏まえ、**指導目標を明確にする。**
- 自立活動の指導について、**なぜその指導目標にしたのか**などを、その設定に至るまでの考え方について、**次の担当者**に引き継げるよう工夫する。
- **計画が適切かどうかは、実際の指導を通して明らかになること**から、効果的な指導を行うため、**PDCAで評価・改善**すること。



特別支援学校教育要綱・学習指導要領解説総論編（幼稚園・小・中・高）
文部科学省（平成30年3月）
特別支援学校部担任のハンドブック（解説版）北海道立特別支援教育センター（令和4年3月）

個別の指導計画は、障がいのある子供一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものであることを説明します。

実態把握や指導目標の設定などについて、各教科と自立活動でその手続きが異なることや、効果的な指導を行うため、PDCAで評価・改善することについて説明します。

演習

演習

自校の個別の指導計画を基に、次のことについて確認しましょう！

- ・個別の指導計画の様式は、どのようになっているか。
- ・作成から評価・改善の年間の流れは、どのようになっているか。
- ・各教科や自立活動の実態把握、指導目標や指導内容の設定は、どのような手続きで行っているか。
- ・指導目標の設定に至るまでの考え方を次の担当者に引き継ぐことができるよう、どのような工夫をしているか。

自校の個別の指導計画を基に、様式（記載する項目や内容）や作成から評価・改善の年間の流れ、実態把握から指導目標の設定の手続きなどについて確認します。

I-6 個別の教育支援計画

実施時期の目安	4～5月、2～3月	
時間の目安	30分（説明10分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド8枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	有り（研修資料の1枚目に二次元コードがあります。）	
研修の方法 （推奨する方法）	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★ 対話を通じた学び	
学校で用意する資料等	個別の教育支援計画、個別の指導計画	

【研修のねらい】

- ・個別の教育支援計画を作成する目的や活用の留意点について理解する。
- ・学校における指導や支援に生かすため、自校の個別の教育支援計画を基に、本人及び保護者の意向や学校における支援の内容を確認するとともに、指導方法や引継ぎへの活用について理解する。

【研修のポイント】

- 個別の教育支援計画は、家庭や医療、福祉などの関係機関と連携を図り、長期的な視点で子供への教育的支援を行うために作成するものです。個別の教育支援計画においては、本人及び保護者の意向や将来の希望などを踏まえ、学校や家庭、福祉機関等における支援の内容を整理し、学校における教育的支援の内容を、指導方法の工夫に生かすことを理解できるようにすることが大切です。
- この研修では、受講者が担当している子供の個別の教育支援計画を基に、本人及び保護者の意向やそれを踏まえた支援の内容、個別の指導計画や引継ぎへの活用等について確認する演習を設定しています。
- 演習では、個別の教育支援計画における本人及び保護者の意向を踏まえた支援の内容を、子供の指導内容や指導方法の工夫に生かしているか、個別の指導計画等と照らして確認することや、保護者との懇談や引継ぎなどでの活用について説明することを通して、実務と結び付け、理解を深められるようにすることが大切です。
- 受講者が、作成や保護者との懇談を行う見通しがある場合は、それらを円滑に進められるよう、演習において、本人及び保護者の意向の聞き取りや支援の内容の検討を進める際の工夫、気を付けていることなどについて、指導教諭から実際の経験等を例示して説明することが考えられます。

個別の教育支援計画の参考様式について
[文部科学省]



【主な内容】

説明

1 個別の教育支援計画とは

〇 一貫した相談支援体制の整備
障害のある子どもの発達段階に応じて、関係機関が適切な役割分担の下に、一人一人のニーズに対応して適切な支援を行う計画（個別の支援計画）を策定して効果的な支援を行う。



この個別の支援計画のうち、幼児児童生徒に対して、教育機関が中心となって作成するものを、個別の教育支援計画という。

個別の教育支援計画について、その定義や作成・活用する目的、利点について説明します。

5 個別の教育支援計画の活用

個別の教育支援計画の活用にあたっては、支援計画を引継ぎ、適切な支援の目的や教育的支援の内容を設定したり、進路先に在学中の支援の目的や教育的支援の内容を伝えたりするなど、**就学前から就学時、そして進学先まで、切れ目ない支援に生かす**ことが大切である。



「初めて過剰による指導を担当する教師のためのガイド」文部科学省（令和2年3月）

個別の教育支援計画の活用にあたって、保護者の理解を得ることや、それまで行っていた支援の内容や取組の成果を引き継ぐなど、必要な支援を切れ目なく行うことについて説明します。

演習

演習

担当している子供の個別の教育支援計画を基に、次のことについて確認しましょう！

- ・本人及び保護者の意向や将来の希望は何か。
- ・学校や関係機関において、実際にどのような支援が必要か。
- ・支援の内容は、個別の指導計画の指導内容や指導方法の工夫に生かされているか。
- ・個別の教育支援計画は、いつ、どのように活用しているか。

受講者が担当している子供の個別の教育支援計画を基に、本人及び保護者の意向や支援の内容、引継ぎにおける活用などについて確認します。

I-7 教員間の連携

実施時期の目安	5～6月、2～3月	
時間の目安	35分（説明15分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド10枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	無し	
研修の方法 (推奨する方法)	説明・演習の両方を指導教諭が実施	
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	○
研修の効果を高めるための工夫	★2 研修の方法の工夫 ★3 先輩教員の経験談や実践	
学校で用意する資料等	無し	

【研修のねらい】

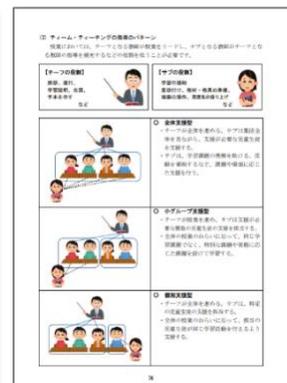
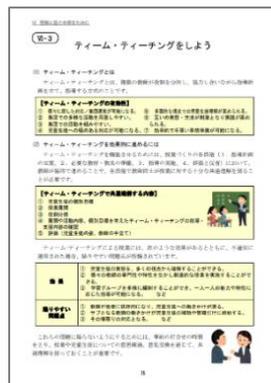
- ・授業や学級・学年の業務、分掌業務等における教員間の連携のポイントを理解する。

【研修のポイント】

- 教員には、対人関係能力を含むコミュニケーション能力、組織的・協働的な課題対応・解決能力、人材育成に貢献する力を身に付けることが求められており、日常の授業において目標や役割分担を共通理解することや一人で抱え込まないこと、同僚と継続的に振り返ることなど、教員間の連携を図ることができるようにすることが大切です。
- この研修では、教員の業務の中で、教員間の連携が必要な場面を確認した後、業務の目的や内容、役割など、受講者が自身の取組状況を振り返る演習を設定しています。
- 演習では、受講者が、連携の大切さを自分事として具体的に捉えることができるよう、説明した内容から、大切であると感じたことや今後意識しようと思ったことを言語化したり、指導教諭が経験談を話したりすることが考えられます。また、自身の振り返りを通して自己理解を深め、日常の業務における相談や情報共有など、教員間の連携を図ることができるようにすることが大切です。



特別支援学級担任のハンドブック（新訂版）
 VI-3 ティーム・ティーチングをしよう
 [北海道立特別支援教育センター]



【主な内容】

説明

1 教員の仕事とは

【「校務」とは】

学校の仕事全体を指すものであり、学校の仕事全体とは、学校がその目的である教育事業を遂行するため必要とされるすべての仕事

【「職務」とは】

「校務」のうち職員に与えられて果たすべき任務・担当する役割



学習指導



学級経営



生徒指導

(4) 生徒指導における教員間の連携

【チーム学校による生徒指導体制】

- ① 一人で抱え込まない。
- ② どんなことでも全体に問題を投げかける。
- ③ 管理職を中心に、ミドルリーダーが機能するネットワークをつくる。
- ④ 同僚間での継続的な振り返り（リフレクション）を大切にする。



「生徒指導連携」文部科学省（令和4年12月）

教員の業務の遂行に当たって、教員間の連携や協力が必要であることを説明します。

日常的なコミュニケーションの大切さや、問題等への対応を抱え込まないことなど、教員間の連携のポイントを例示して説明します。

演習

演習

教員間の連携について、「今後の取組に生かそうと思ったこと」や「指導教諭に聞いてみたいこと」などを記入して、交流しましょう。

【ティーム・ティーチング】	【学年経営】
【学級経営】	【生徒指導】

今後の業務への前向きな見通しをもてるよう、自身の役割や取組状況を整理します。また、受講者同士で、現状等について交流します。

I-8 保護者への対応

実施時期の目安	6月、2～3月	
時間の目安	35分（説明15分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド12枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	無し	
研修の方法 (推奨する方法)	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★2 研修の方法の工夫	★3 先輩教員の経験談や実践
学校で用意する資料等	無し	

【研修のねらい】

- ・保護者への対応の心構えや保護者の要望等に対する学校の組織的な対応について理解する。

【研修のポイント】

- 保護者への対応においては、保護者の思いを共有できるよう、傾聴・受容・共感を基本に内容を確認し整理することや、管理職への報告や役割分担など、組織的に対応することの重要性を理解できるようにすることが大切です。
- この研修では、保護者から話を聞く時の心構えや聞き方、内容の整理の仕方などの初期対応とともに、その後の組織的な対応の進め方について説明します。その後、子供の保護者の要望や連絡にどのように対応するかという演習を設定しています。
- 演習は、〔保護者からの要望や連絡の例〕を参考に、指導教諭が実際に経験した事例を提示して行います。どのように対応することが考えられるかを受講者が話し合い、指導教諭から、受講者が話し合った内容を価値付けしながら、実際の対応を説明するなど、受講者が保護者への対応について理解を深められるようにすることが大切です。



「基礎的研修シリーズ（教職スタート講座小学校編）」
 5. 保護者への対応編
 [NITS 独立行政法人教職員支援機構]



Ⅱ-1 授業づくりの基本 ～1 単位時間の授業の目標の明確化～

実施時期の目安	7～8月	
時間の目安	30分（説明10分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド8枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	無し	
研修の方法 （推奨する方法）	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
研修の効果を高めるための工夫	★1 対話を通じた学び ★2 研修の方法の工夫	
学校で用意する資料等	学習指導案（指導略案）	

【研修のねらい】

- ・ 本時の目標を、資質・能力の3つの柱から焦点化して設定することを理解する。
- ・ 指導略案を基に、目標を達成した児童（生徒）の具体的な姿を想定し、学習活動の位置付けや手立てを検討する。

【研修のポイント】

○ 1 単位時間の授業においては、単元の目標や評価規準を踏まえ、その時間に育成を目指す資質・能力を明確にすることが大切です。また、本時の目標を達成した子供の具体的な姿を想定し、達成に向けて、正対した学習活動を位置付ける必要があることについて理解し、学習指導案（指導略案）を作成・検討できるようにすることが大切です。



- 演習では、授業づくりの基本を理解し、研究授業のみならず、日常の授業に生かすことができるよう、本時の目標が、資質・能力の3つの柱のいずれであるのか、どのような姿が見られたら達成となるのかを確認し、それに向けた学習活動や手立てを検討することが考えられます。
- 研究授業は、授業の構想や文章化、学習指導案（指導略案）の検討など、時間を掛け力を注ぐ取組です。授業者が、授業に対する理解を深めるとともに、自身の成長を振り返りやりがいを実感し、教職に対する自信や意欲を持てる機会にすることが大切です。

令和2年度 小学校（中学校）教育課程編成の手引
 【小中共通】授業づくりの基本〔視点2〕
 [北海道教育委員会]



【主な内容】

説明

1 「ねらい」から「まとめ・振り返り」までの1単位のデザイン

1 単位時間で完結できる導入・展開・終末の時間配分をする。

- ◆ 1 単位時間で全ての児童生徒を「概ね満足できる」学習状況にする観点から、時間配分を工夫します。

本時のねらいに正対した学習活動を位置付け、評価規準との関連を図る。

- ◆ 本時の「まとめ」、「振り返り」の児童生徒の姿を想定し、終末に至るまでの過程を考え、授業を構想します。

「令和2年度小学校教育課程編成の手引」（北海道教育委員会）

中学部 保健体育科「ダンス」の例 ～本時の授業～

【目標】・踊る振り付けについて考え、意見を言う。

観
・脚のステップや腕の振り付け（既習事項の確認）

展
開
「前時に学んだ知識・技能を踏まえ、踊るダンスの振り付けや順序などを考え、意見を言う」

本時の課題を提示する
生徒が考えるための視点を示す } 学習活動の位置付け
手立て

（生徒の発言や記述の例）
「腕のこの振り付けは得意だから、何回か繰り返して取り入れたいな。」

目標を達成した児童生徒の姿の具体

1 単位時間の授業におけるポイントについて、「令和2年度 小学校（中学校）教育課程編成の手引（【小中共通】授業づくりの基本）」の内容を基に説明し、確認します。

授業における目標の焦点化や目標に正対した学習活動の位置付け、目標を達成した子供の姿の具体を想定することについて説明します。

演習

演習

自分の授業のねらい（目標）について、どのような姿が見られたら達成となるのか、考えてみましょう！

- ・本時の目標は、3つの資質・能力のうちのどれか。
- ・その内容はどの教科の内容か。
- ・子供にどのような姿が見られたら、本時の目標の達成となるのか。
- ・目標に迫る子供の変容、どの場面でどのようにして見取るか。
- ・目標の達成に向けた、課題の提示、学習活動、発問、振り返りは、どのような工夫が考えられるか。

受講者が担当する授業の学習指導案（指導略案）を基に、本時の目標を焦点化し確認するとともに、達成した子供の姿の具体について考え、交流します。

Ⅱ-2 単元の指導計画

実施時期の目安	7～8月	
時間の目安	35分（説明15分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド12枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	無し	
研修の方法 (推奨する方法)	説明・演習の両方を指導教諭等が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭等が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★ 対話を通した学び	
学校で用意する資料等	単元の指導計画	

【研修のねらい】

- ・単元における育成を目指す資質・能力の明確化や評価規準を踏まえた学習活動の位置付けについて理解する。

【研修のポイント】

- 単元の指導計画作成（単元づくり）においては、各教科の学習内容の習得状況などの子供の実態を把握することや、単元において育成を目指す資質・能力を明確にして、単元の目標や評価規準を設定し、評価規準を踏まえた学習活動を単元全体を通してバランスよく位置付ける必要があることを理解できるようにすることが大切です。（2点目の評価規準の設定については、Ⅱ-3の研修資料を参照）
- この研修では、これらのことを視点に、単元の指導計画の内容の見直しや必要に応じて修正を行う演習を設定しています。
- 演習では、単元を通してどのような力を身に付けるのか、知識や技能を習得する時間や、思考力や判断力を育む時間をどこに位置付けるのかなど、資質・能力を踏まえて学習活動を考えることができるようにすることが大切です。また、取り扱う教科の内容の理解を深めるため、学習指導要領の記載を確認したり、子供の学びイメージ持てるよう、対話を通じて言語化したりするなどの工夫が考えられます。



令和2年度 小学校（中学校）教育課程編成の手引
 【小中共通】授業づくりの基本【視点1】【視点2】
 [北海道教育委員会]

【主な内容】

説明

4 実態差に応じた個人目標の設定

□学びの履歴の把握

学年	1年			2年			3年		
	国語	算数	理科	国語	算数	理科	国語	算数	理科
あゆみ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ゆかり	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ひなた	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ポイント1
一人一人の学びの履歴の把握
各児童の達成状況を把握することにより、単元を履修して学習する内容を明確にすることができます。

ポイント2
実態に応じた目標と評価規準の設定
一人一人の実態に応じて、適切な目標を設定し、適切な評価規準を設定します。

□評価規準

評価規準	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能	教科書の内容を正確に理解し、自分の言葉で説明することができる。	学習の意欲をもち、積極的に学習に取り組むことができる。	学習の意欲をもち、積極的に学習に取り組むことができる。	教科書の内容を正確に理解し、自分の言葉で説明することができる。	学習の意欲をもち、積極的に学習に取り組むことができる。

「令和4年度 特別支援教育課程編成の手引」北海道教育委員会（令和5年3月）

各教科の学習内容の習得状況や到達状況などの子供の実態を把握した上で、単元において育成を目指す資質・能力を明確化することについて説明します。

8 単元や題材のまとまりを考える

時	主な学習活動	目標	評価の観点		
			知	意	主
1	脚のステップや靴の振り付けの確認	脚のステップを覚え、踊ることができる。	○		
2	踊る曲、ステップや振り付けの選択、決定	踊る振り付けの選択や決定で、考えをもち、意見を言う。			
3	振り付けの確認①	振り付けの出来映えや変更点などについて考えをもち、意見を言う。		○	
4	振り付けの確認②	脚のステップや靴の振り付けを決めたあとに踊ることができる。	○		
5	コンテスト①	発表を見て、感想を言う。			○
6	振り付けの変更、改善	コンテストを振り直し、振り付けの変更、改善に考えをもち、意見を言う。		○	
7	振り付けの確認③	脚のステップや靴の振り付けを決めたあとに踊ることができる。	○		
8	振り付けの確認④	発表を見て、感想を言う。			○

評価規準を踏まえた学習活動を、学ぶ文脈を踏まえながら、単元（題材）全体を通してバランスよく位置付けることについて説明します。

演習

演習

単元の指導計画を見ながら、以下のことを検討しましょう！

- 子供の学習状況を把握し、単元を通して育成を目指す資質・能力（単元の目標）が、各教科の内容に基づいて設定されているか。
- 資質・能力の育成に向け、目標を達成するための学習活動が、単元を通してバランスよく位置付けられているか。



受講者が担当する単元の指導計画を基に、単元の目標が、各教科の内容に基づいて設定されているか、目標の達成に向けた学習活動が、単元を通してバランスよく位置付けられているか考え、交流します。

Ⅱ－3 学習評価 ～評価規準の設定～

実施時期の目安	8～9月	
時間の目安	40分（説明：20分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド14枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	無し	
研修の方法 （推奨する方法）	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★ 対話を通じた学び	
学校で用意する資料等	単元の指導計画、学習指導要領（各教科等編）、特別支援学校学習評価参考資料	

【研修のねらい】

- ・指導と評価の一体化や評価場面・評価方法の計画についての説明や、評価規準を作成する演習を通して、学習評価の基本的な考え方を理解する。

【研修のポイント】

- 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科を取り扱う場合においても、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころとして評価規準を作成し、学習評価を行う必要があることを理解するとともに、評価規準を作成することができるようにすることが大切です。



特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料
（令和2年4月） [文部科学省]



特別支援学校高等部学習評価参考資料
（令和4年3月） [文部科学省]

- この研修では、単元の目標に照らして観点別学習状況の評価をする評価規準を作成する演習を設定しています。演習に当たっては、単元の目標が、学習指導要領の各教科の内容を基に設定されている必要がありますので、必要に応じて、Ⅱ－2の研修を実施してください。

【主な内容】

説明

3 内容のまとまりごとに評価規準を作成

「(2) 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりうるものである。学習指導要領の目標に照らして観点別学習状況の評価を行うに当たり、児童生徒が資質・能力を身に付けた状況を表すために、「(2) 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したものを本参考資料において「内容のまとまりごとの評価規準」と呼ぶこととする。

「内容のまとまりごとの評価規準」

重要!



「特別支援学校」学部・中学部 学習指導参考資料「文部科学省（令和2年）」

特別支援学校における学習評価の考え方、「内容のまとまりごとの評価規準」やその作成方法について説明します。

4 学習評価の基本的な考え方

学習評価とは・・・

学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するもの

- 子供たち自身が自らの学びを振り返って、**次の学びに向かう**ことができるようにする。
- 「子供たちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教員が**指導の改善**を図る。

指導と評価の一体化

評価場面や
評価方法の計画

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」 中央教育審議会（平成28年）

学習指導案の作成に当たっての学習評価を踏まえた指導と評価の一体化や、評価場面や評価方法の計画について説明します。

演習

演習 「単元の目標から単元の評価規準を作成する。」

単元の目標		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・	・	・

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・	・	・

単元の目標を基に、単元の評価規準を作成します。学習指導要領の解説（各教科等編）や学習評価参考資料を参照し、指導教諭と検討しながら作成し、交流します。

Ⅱ-4 学習指導案の作成

実施時期の目安	8～9月	
時間の目安	35分（説明15分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド12枚 研修資料は、こちら → 	
研修動画	無し	
研修の方法 (推奨する方法)	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★1 対話を通じた学び ★2 研修の方法の工夫	
学校で用意する資料等	学習指導案の様式	

【研修のねらい】

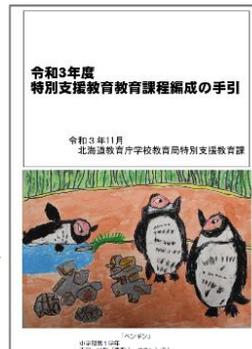
- ・学習指導案の基本的な項目や作成に当たってのポイントについて理解する。
- ・学習指導案の作成に向けて、自校の様式や作成、検討の進め方について確認し、見通しを持つ。

【研修のポイント】

- 学習指導案は、育成を目指す資質・能力を明確にし、子供が何を学ぶのか、どのように学ぶのかという授業の内容や手順を具体的に考え、整理して書き表したものです。作成する作業は時間を要しますが、作成して授業研究を行うことで、自らの教育活動を振り返ることができ、行った授業の教科や指導、子供の理解が深まり、指導力の向上につながることを理解し、意欲的に取り組めるようにすることが大切です。
- この研修では、学習指導案の項目に沿って説明しますので、「Ⅱ-1 授業づくりの基本」から「Ⅱ-3 学習評価」までの研修を事前に行い、必要に応じてそれらの内容を確認し、理解を深められるようにすることが大切です。
- 演習では、自校の学習指導案の様式や作成、検討の進め方などについての確認を設定しています。指導教諭から、自校における取り組み方を説明するとともに、受講者の理解度や不安な点などについて対話を通して把握しながら、受講者の研究授業の教科や単元などを踏まえ、学習指導案の作成や、検討を進める見通しやコツなどについて助言することが考えられます。

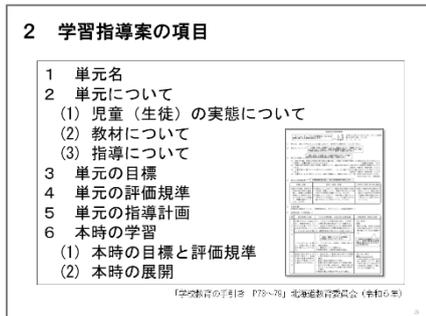
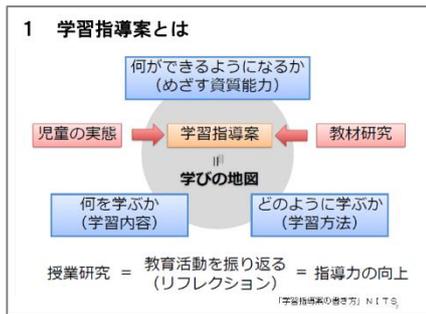


令和3年度特別支援教育教育課程編成の手引
別冊 単元の指導計画 一単位時間の指導計画
[北海道教育委員会]



【主な内容】

説明



学習指導案を作成することにより、教科や子供の理解が深まることや、自らの教育活動を振り返り、指導力の向上につながるについて説明します。

学習指導案の項目に沿って、単元の目標や評価規準の位置付けなどの大切な点や、項目により、個別に記載するなどの特別支援学校の例について説明します。

演習

演習

学習指導案について確認をしましょう！

- ・学習指導案の様式の各項目を確認しましょう。
- ・作成、検討に至る業務の流れやスケジュールを確認しましょう。
- ・研究授業をどの教科、単元で実施するか、検討しましょう。
- ・作成に当たって必要な資料等には、どのようなものがあるか確認しましょう。

12

受講者が、学習指導案の作成に向け、意欲や見通しをもてるよう、様式や作成、検討の進め方などについて確認します。

Ⅱ-5 主体的・対話的で深い学び

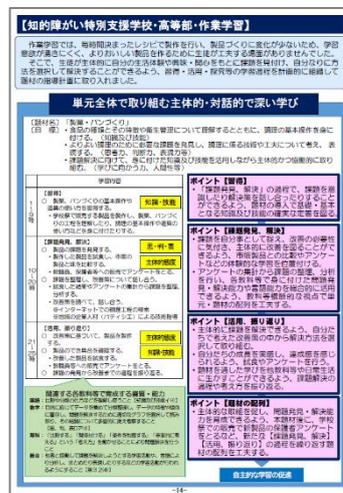
実施時期の目安	7～8月
時間の目安	30分（説明10分、演習20分）
説明・配付資料	パワーポイントスライド10枚 <div style="text-align: right;">  研修資料は、こちら → </div>
研修動画	無し
研修の方法 (推奨する方法)	説明・演習の両方を指導教諭が実施 ○ 説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施
研修の効果を高めるための工夫	 対話を通じた学び
学校で用意する資料等	単元の指導計画

【研修のねらい】

- ・「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点について理解する。
- ・単元の指導計画を基に、子供が目標の達成に向け、各授業においてどのように学ぶか、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から考え、単元をデザインする技能を身に付ける。

【研修のポイント】

- 「主体的・対話的で深い学び」は、子供に資質・能力をバランスよく育むための授業改善の視点であり、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、子供がどのように学ぶかを考える必要があることを理解し、実践できるようにすることが大切です。
- この研修では、単元の指導計画を用いた演習を設定しています。演習を行うためには、単元の指導計画において育成を目指す資質・能力（単元の目標）が明確になっている必要がありますので、そのことを確認し、必要に応じて本プログラム「Ⅱ-2 単元の指導計画」の研修を実施してください。
- 演習では、授業改善の視点について理解を深め、日常の授業づくりに生かすことができるよう、主体的な学びや対話的な学びなどの視点を踏まえて、単元の目標の達成に向けて、どの時間にどのように学んでいくのか、教師の意図の確認や子供の学ぶ姿を引き出すための工夫を検討することが考えられます。



【主な内容】

説明

2 主体的な学び

○ 主体的に学習に取り組めるよう、自身の学びや姿勢を自覚する

<学習者の視点>	<授業者の視点>
<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持つ ・自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ・見通しをもつ ・粘り強く取り組む ・自己の学習活動を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を振り返る ・具体物を提示して引きつける ・子供が明らかにしたくなる 学習課題を提示する ・子供が自らのあてをつかむようにする ・学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる ・子供が自分の考えを持つようにする ・子供の思考を見守る ・子供の考えを生かしてまとめる ・思考を交流させる ・交流を通して思考を広げる ・協働して問題解決する ・その日の学びを振り返る ・新たな学びに目を向けさせる

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」(国立教育政策研究所)

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点について、子供の学び姿やそれらを引き出すための教師の取組や手立てについて説明します。

中学部 保健体育科 「ダンス」の単元の指導計画の例

時	主な学習活動
1	踊のステップや振の振り付けの練習
2	踊る曲、ステップや振り付けの選択、決定
3	振り付けの練習①
4	振り付けの練習②
5	振り付けの確認
6	コンテスト①
7	振り付けの変更、改善
8	振り付けの練習③
9	振り付けの練習④
10	コンテスト②

・「どの振り付けがいいかな・・・」
 ・「うまくできているのはどこかな。」
 ・「振り付けを変えようかな。練習方法を工夫しようかな。」
 ・「学ぶの意図」
 ・「対話する意図」

単元の目標の達成に向けて子供がどのように学ぶか

単元の目標の達成に向けて、子供がどのように学ぶかを、単元を見通しながら考える必要があることについて、例を示して説明します。

演習

演習

単元の指導計画を基に、「主体的な学び」や「対話的な学び」、「深い学び」の視点から考えられる工夫を考えてみましょう！

- ・単元を見通して、主体的に学んでほしいと考える授業や生徒の姿にはどのようなものがあるか。
- ・そのために、単元や授業において、どのような工夫が考えられるか。
- ・主体的な学びや対話的な学びの視点から考えた工夫は、単元の目標（又は授業の目標）の達成に向けたものとなっているか。

受講者が担当する単元の指導計画を基に、単元の目標や指導の意図を確認し、子供の主体的に学ぶ姿や対話的に学ぶ姿を引き出し、目標の達成に迫るための工夫を考えます。

Ⅱ－6 個別最適な学びと協働的な学び

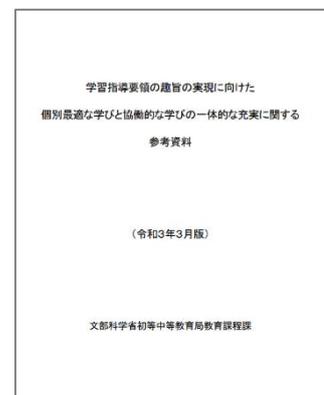
実施時期の目安	8～9月	
時間の目安	35分（説明15分、演習20分）	
説明・配付資料	パワーポイントスライド9枚	 研修資料は、こちら →
研修動画	無し	
研修の方法 (推奨する方法)	説明・演習の両方を指導教諭が実施	○
	説明は受講者自身で、演習は指導教諭が実施	
研修の効果を高めるための工夫	★ 対話を通じた学び	
学校で用意する資料等	学習指導案（指導略案）、個別の指導計画	

【研修のねらい】

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」について理解する。
- ・単元の指導計画や指導略案、個別の指導計画を基にした協議を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る取組や工夫について理解する。

【研修のポイント】

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、学習活動の充実の方向性を改めて捉え直す観点です。子供の資質・能力の育成に向けて、学習活動をこれらの観点から見つめ直し、それまで蓄積されてきた工夫やICTなどを指導に生かして充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくという考え方を理解できるようにすることが大切です。
- この研修では、授業の指導略案を基に、これらの観点で学習活動を見つめ直す演習を設定しています。演習に当たっては、指導略案において、単元の目標を踏まえ、本時の授業において育成を目指す資質・能力が明確になっている必要があります（本プログラム「Ⅱ－1 授業づくりの基本」）。
- 演習では、目標の達成に向けてどのように学ぶか、「個別最適な学び（指導の個別化）」や「協働的な学び」の観点から捉え、ICTを含めた教材の活用や教師による支援の工夫などを検討します。
- 特別支援教育においては、個別の指導計画を作成し、「個に応じた指導」の充実を図ってきたことから、個別の指導計画の記載内容を手掛かりにして検討することや、指導教諭の実践を例示することにより、受講者が理解を深め、授業場面における具体的な工夫を検討できるようにすることが考えられます。



「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実
[文部科学省]

【主な内容】

説明

1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」のイメージ

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

主体的・対話的で深い学び

2 「個別最適な学び」について

個別最適な学び【学習者視点】（＝個に応じた指導【教師視点】）

～子供が自己調整しながら学習を進めていく～

指導の個性化

- ✓ 子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、
- ✓ 教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う

→ 一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

学習の個性化

- ✓ 子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、
- ✓ 教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組み機会の提供を行う

→ 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

令和の日本型学校教育の構築を目指して(答申)【経団協版】(中央教育審議会 令和3年3月)

子供が自己調整しながら学習を進めていくことができるように指導することが重要

「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、答申や通知等を基に説明し、確認します。

子供の「個別最適な学び」や「協働的な学び」の姿の具体やそれらを意図した取組について説明するとともに、それらを通して「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指していくことを説明します。

演習

演習

自分の指導について、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から振り返りましょう！

- ・授業において、「個別最適な学び（指導の個性化）」や「協働的な学び」の観点から工夫している点や改善点は、どのようなことがあるか。
- ・担当している子供の個別の指導計画において、「個別最適な学び」の実現に向けて活用できる記載内容には、どのようなものがあるか。
- ・個別の指導計画の記載内容を基に、授業において、どのような工夫が考えられるか。

受講者が担当する授業の指導略案、担当する子供の個別の指導計画を基に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための取組や工夫の在り方について考え、交流します。

研究協力校

本プログラムに当たり、以下の研究協力校に御協力をいただき、作成することができました。心からお礼申し上げます。

令和5年度

北海道美深高等養護学校

北海道室蘭養護学校

特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）

令和6年（2024年）3月 発行

発行 北海道立特別支援教育センター

北海道立特別支援教育センター